

令和 5 年 4 月 13 日

(※受付番号)

教 育 長 様

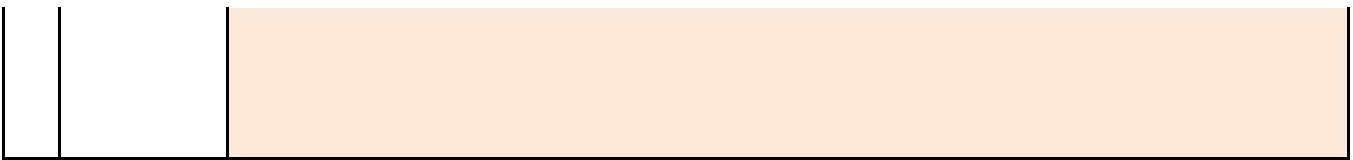
研究コース
B グループ研究B
校園コード（代表者校園の市費コード）
561155

代表者	校 園 名 :	大阪市立本田小学校
	校園長名 :	今村 友美
	電 話 :	06-6581-1531
	事務職員名 :	喜連 尋滋
申請者	校 園 名 :	大阪市立本田小学校
	職名・名前 :	主務教諭 池上 智希
	電 話 :	06-6581-1531

令和5年度 「がんばる先生支援」研究支援 申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	B グループ研究B	研究年数	新規研究（1年目）
2	研究テーマ	令和の日本型学校教育の創造 -国語科における学習の個性化を探る-			
3	研究目的	<p>テーマに合致した目的を項立てて記載してください。</p> <p>令和3年1月に中央教育審議会から、「令和の日本型教育」についての答申が行われた。そこでは個別最適な学びと協働的な学びの往還について、その必要性が述べられている。しかし、具体的な授業デザインや児童の姿などが捉えにくいうことが課題ではないかと考える。そこで本取組では、個別最適な学びの柱である「学習の個性化」に焦点を当て、国語科における学習の個性化を明らかにすべく研究を進めていく。以下具体的に研究の目的を記す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語科で育む資質・能力を明確化し、系統性を意識した単元や授業作りの方法を整理する。 ○知識・技能等を土台とし、児童それぞれが選択・判断できるような授業デザインを目指す。 ○教科等横断的な視点から、国語科と他教科の関連を探る。 ○先進的研究校や有識者から学ぶ場を企画し、それらを全市へ発信することで学びを広げる。 これらの取組を通して、児童の資質・能力の育成を目指す。 			
4	研究内容	<p>(1)研究内容の詳細 ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>本研究は個別最適な学びの柱の一つである「学習の個性化」に焦点を当て、国語科における「学びの個性化」についてその授業デザインや児童の姿を明らかにしていきたいと考える。具体的な研究内容を以下に記す。</p> <p>①国語科における「学習の個性化」の定義付け</p> <p>文献研究を実施し、「学習の個性化」について定義付けを行う。そのためにまず学習が個性化された児童の姿や国語科における授業像などを整理する。また先進的研究校を視察したり自ら実践を重ねたりし、具体的な児童の姿や授業実践を通して「学習の個性化」についての定義を深化・拡張させていく。</p> <p>②国語科の実践を行う中で「学習の個性化」を目指した授業デザインの整理</p> <p>定義づけしたことに基に、授業実践を積み重ねていく。その中で国語科における「学習の個性化」についての授業デザインを整理していく。具体的には、「学習の個性化」が現れるタイミングが単元のどこに位置づくのかを明らかにしていきたいと考える。また、児童自身が学びの方向性を自ら選択・判断できるような活動や振り返りなどの位置づけも検討することで、児童が学びを自覚することができる授業デザインを目指したい。またそれらを指導案等で言語化することで、公開研究会等において議論できるようにする。</p> <p>③「学習の個性化」を目指した授業デザインに基づく学習評価の充実</p> <p>学力経年調査における児童アンケートの検証に加え、児童の学びが豊かになったのかを明らかにするために、学期はじめ、抽出単元実施時、学期おわりに調査を実施する。また本研究メンバーの授業デザインの比較・検証することで、教員の指導力の向上についても調査を行う。</p> <p>④研究の過程や授業実践を整理し、参会者と共に学ぶ研究会の開催</p> <p>研究を通して明らかになった定義やそれを基にした授業実践を全市に発表する公開研究会を行う。その際有識者を招聘し、本研究の取組について指導助言を頂く。また参会者と意見交流を行う場を設定する。本研究メンバーのみならず、参会者にも充実した学びのある研究会を目指す。</p> <p>(2)継続研究〔2年目〕 ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>(3)継続研究〔3年目〕</p>			



研究コース

B グループ研究B

代表校校園コード

561155

代表校園

大阪市立本田小学校

校園長名

今村 友美

		日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。
		年間を通して、「学習の個性化」についての言葉の定義づけや、国語科における授業デザインについて検討を行う。 4月 研究テーマ、研究の進め方、見込まれる成果等について検討 文献研究等の実施 5月 児童・教員アンケートの作成・実施・分析 文献研究を基に「学びの個性化」についての児童の姿や授業デザインの共有 6月 本研究メンバーの授業実践の検証 先進的研究校への研究会参加（福岡大学附属小倉小学校） 7月 1学期の実践の振り返り 「学習の個性化」についての児童の姿や授業デザインについて検証 8月 国語科研修会の実施 「国語科における個別最適な学び」 講師 筑波大附属小学校教諭 2学期の実践の方向性についての共通理解 抽出単元の決定 9月 抽出単元の指導案作成 実践教材の教材分析 10月 抽出単元の実践・検証 児童アンケートの実施・分析 アンケート内容から授業デザイン等を再検討 11月 抽出単元の実践・検証 児童アンケートの実施・分析 公開授業研究会の指導案作成 12月 2学期の実践の振り返り 公開授業研究会の指導案検討 1月 公開授業研究会・研究協議会 講師：明星大学教授 「学習の個性化」についての授業提案 2月 研究の整理：児童の姿や授業デザインについてまとめる。 児童・教員アンケートの実施・分析 がんばる先生支援報告書作成・提出 先進的研究校への研究会参加（筑波大学附属小学校） 3月 次年度へむけて、本年度の成果と課題の共通理解
5	活動計画	出張を伴う研究会への参加、外部講師を招聘する研修会の実施等、経費執行が必要な取組を記載してください。 ・ 6月中旬 先進的研究校視察（福岡大学附属小倉小学校） ・ 8月中旬 国語科授業研修会の指導助言 講師：筑波大学附属小学校 青木伸夫教諭 ・ 1月中旬 公開授業研究会の指導助言 講師：明星大学 白石範孝教授 ・ 2月中旬 先進的研究校視察（筑波大学附属小学校）
		(1)継続研究（2年目、3年目）において検証方法の変更の有無を記入してください。 <input type="checkbox"/> 変更しない。 <input type="checkbox"/> 変更する。 理由
		(2)大阪市教育振興基本計画に示されている、「 <u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u> 」および、「 <u>教員の資質や指導力の向上</u> 」について見込まれる成果を端的に記載し、その成果について客観的な指標により、必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。（いずれかに☑を入れてください） 【見込まれる成果1】 <input type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 <input type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上 既習事項や学習用語を土台（知識・技能）とし、児童が学びの方向性を選択したり判断したりしながら、国語科の学習を進める姿が見られる。
6	見込まれる成果とその検証方法	《検証方法》 抽出単元の実践後に児童アンケートを実施し、「課題解決に向けて自身で工夫して取り組んだ」「どうすれば課題が解決するかを考えた」の項目に対し、肯定的な割合を80%以上とする。 【見込まれる成果2】 <input type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 <input type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上 児童の興味・関心に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、国語科における児童の資質・能力が育成される。 《検証方法》

経年調査において、国語科の「基礎・活用」に関する項目で大阪市平均を超える。児童アンケートを実施し、「国語科において自分には力がついた」に肯定的に回答する児童を80%以上にする。

6	<p>見込まれる成果とその検証方法</p> <p>【見込まれる成果3】</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 <input checked="" type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上 <p>本研究を進める中で、「学習の個性化」についての知識を深め、具体的な授業デザインをイメージすることができる。またそれらを指導案等で言語化し、実践・省察を繰り返すことで国語科の授業改善を図る。</p> <p>『検証方法』 教員アンケートの項目「国語科における『学習の個性化』について、実践のイメージができた」において肯定的な回答を80%以上とする。またインタビュー調査を実施し、イメージの具体的な内容を分析する。</p> <p>【見込まれる成果4】</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 <input checked="" type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上 <p>公開授業研究会を開催し、提案授業及び研究協議会、講演会を通して、参会者と共に「学習の個性化」について学びを深めることができる。</p> <p>『検証方法』 公開時のアンケートで「本校の研究は、参考になったか」の項目で肯定的な割合を80%以上、「学んだことは、自身の実践にも生かせそうだ」の項目で肯定的な割合を80%以上にする。</p>						
7	<p>◆研究発表【必須】 報告書提出日（令和6年2月22日）までに必ず行ってください。</p> <p>○研究発表の日程・場所（予定）</p> <table border="1" data-bbox="398 1006 1410 1073"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 6 年 1 月 26 日</td> <td>場所</td> <td>本田小学校</td> </tr> </table> <p>◆waku^{x2}.com-bee掲載による共有【必須】</p> <p>○掲載の日程（予定）</p> <table border="1" data-bbox="398 1163 959 1230"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 6 年 2 月 22 日</td> </tr> </table> <p>◆他の共有方法を計画している場合は記載してください。</p>	日程	令和 6 年 1 月 26 日	場所	本田小学校	日程	令和 6 年 2 月 22 日
日程	令和 6 年 1 月 26 日	場所	本田小学校				
日程	令和 6 年 2 月 22 日						
8	<p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する 本研究において、注目すべき点は「学習の個性化」の定義づけである。「令和の日本型学校教育」で明言された、児童が自ら問題を設定し、情報収集、整理・分析をし、まとめ・表現までを行う学びの道筋を明らかにすることは、2030年の未来を担う児童にとって、最重要である。 国語科のどの単元において「学習の個性化」が発現するのかを明らかにすることは、容易ではない。しかし、本研究において、実践者各々が協働し、授業分析を進めることによって、そのタイミングは必ず明らかにできるものと確信する。 本研究が、大阪市全体の国語教育の向上につながるものとなるように、推進していきたい。</p> <p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p>						
	<p>3. 継続研究（3年目）</p>						